

越前町立福井総合植物園プラントピア

開園 25 周年 記念講演会

講演 1. 『研究の場としての植物園の活用』

岩科 司 先生

公益社団法人 日本植物園協会 会長
前・国立科学博物館植物研究部部長・筑波実験植物園園長

専門は植物化学分類学。とくに、植物のフラボノイドを対象にして、花色発現や紫外線防御などを研究。世界各地で原種植物の調査を行い、インドネシアのボゴール植物園など、多くの植物園とも共同研究を行ってきた。

講演 2. 『福井県のワカサハマギク』

中田 政司 先生

富山県中央植物園 園長

専門は植物細胞分類学。キク属の種分化を研究する過程で、野生ギク個体群の省長や園芸菊による遺伝的汚染、外来キク属の侵入と在来種との交雑が明らかになり、現在は植物多様性保全に関わっている。

講演 3. 『福井県にも分布するミノコバイモとその仲間』

鳴橋 直弘 先生

富山大学名誉教授、現・大阪市立自然史博物館外来研究員

専門は植物分類学。とくに、形態学、生態学、および細胞学的手法を駆使して、多くの植物の分類学的研究を行ってきた。北陸地方の植物に精通し、ユキミバナ、ホクリクタツナミソウ、シロミノヤブヘビイチゴなどの新分類群の発表、オオユリワサビ、マルバクサイチゴの再発見など、多くの成果をあげた。

講演 4. 『福井のオニアザミとコヒナリンドウ』

門田 裕一 先生

国立科学博物館名誉研究員、元・国立科学博物館植物研究部主任研究官

専門は植物分類・地理学、キンポウゲ科トリカブト属・キンバイソウ属やキク科アザミ属・トウヒレン属など、「分類が難しい」とされてきた植物群を専攻、また、日本列島の高山植物の由来を解明するため、広くアジアの高山帯でも調査研究を行ってきた。アザミ属・トウヒレン属などの研究では、当園との共同研究で新種を発表した。

講演 5. 『福井のテンナンショウ』

邑田 仁 先生

東京大学名誉教授。
元東京大学大学院理学系研究科付属植物園園長

専門は植物分類学。国内だけでなく、韓国・台湾・中国・ミャンマー・インドネシアなどで現地調査を行い、広くアジア地域の植物を研究。ウマノスズクサ属、ツチトリモチ属、ツルリンドウ属、サワギキョウ属などを手がける。とくに、サトイモ科テンナンショウ属の研究に長年取り組み、2018年「日本産テンナンショウ属図鑑」を出版。



【開催スケジュール】

令和元年5月6日（月・祝）

12:30開場

13:00開演

16:30閉演

【お申込み・お問合せ】

越前町立福井総合植物園プラントピア
〒916-0146 福井県丹生郡越前町朝日 17-3-1
電話 0778-34-1120
ホームページ：<http://www.fukui-bot.jp/>